



資料叢報



第 32 号

編 集 平成 24 年 3 月 31 日
 発 行 高森町歴史民俗資料館
 長野県下伊那郡高森町
 下市田 2243
 電話 (0265) 35-7083
 印 刷 (有) 雨 宮 印 刷
 電話 (0265) 22-6027



武陵地一号古墳より出土の富本銭

目 次

○あいさつ	2	・企画展「雛人形と美人画展」	13
○平成 23 年度事業報告	3	・大正月飾り	13
○平成 23 年度の記録	4~6	○小正月飾り作り教室	14
○委員会等の記録	7	○学校教育との連携	15
○「時の駅」講座のようす	8	○平成 23 年度資料寄贈者御芳名	16
○平成 23 年度企画・特別展		○研究調査報告	
・企画展「五月人形と武具展・		特別展「白河藩と南山一揆」	17~19
東京木目込み人形展」	9	○所蔵資料	20
・町民ギャラリーに展示された作品	9	○入館者数と利用のようす	20
・特別展「平和展」	10、11	○編集後記	20
・特別展「白河藩と南山一揆」	11、12		

◎ごあいさつ



高森町長 熊谷元尋

2027年に東京と名古屋間で開業するリニア中央新幹線は、当町のごく近い場所を通り中間駅も建設されます。15年先の高森町は、どのようになっているのでしょうか。東京へ40分、名古屋には20分で行くことが可能になります。夢がだんだんと現実が変わって行きます。

人口減少と少子高齢化の進行が顕著な飯田下伊那地域では、この時とばかりにリニアへの期待が大きくなっています。でも、都会からやって来る皆さんは、都会と同じような町には魅力を感じないと思います。

これから高森町がどのように変化していくのか。リニアが開業した時、15年前の人たちは何を考えていたのか。私たちの子どもや孫にきちんと引き継いでいくことが大切ではないでしょうか。

資料館は高森町の歴史を学ぶ場としての役割はもちろん必要ですが、高森町のこれからの歴史をどのように残していくのか、資料館の活動の中で研究していただきたいと思います。

資料館がこれからも生涯学習の拠り所として、多くの皆さんが気軽に立ち寄ってみたいくなる、そんな資料館であってくださることを願っています。



資料館運営委員長 松島悦男

昨年の3.11東日本大震災は、日本の歴史上希にみる大惨事となつてしまい、今は復興に懸命の時です。この状況の中、当館の特別展「平和展」は919名もの参観があり「日本の悲惨な時代を後世に伝えるべく貴重な機会になった」という感想が多数寄せられました。終戦から約60年が過ぎ、生存する証人が極少数となった今、尚更継続する必要を強く感じました。「時の駅」講座「信濃の宮・宗良親王とその周辺」では混乱の世にあって親王を慕い支える人々が、しかも今なお、脈々と親王の意志を継いでいるお話に感銘。「本学神社と松尾多勢子」では、日本の夜明けを勤王の志士として歌人として生涯を貫き通した女性像を克明に調べたお話に敬服。「松岡城と松源寺」では戦国時代焼失したり、住職の不在時代等、幾多の困難を乗り越えて現在があるお話にも感動。各講座がすべて、40名以上の聴講を頂きその関心の高さと熱心さに感謝。講師の皆様には具体的な資料を基に貴重なお話を頂きお礼申し上げます。

世界的な歴史家トインビーは「若い世代に歴史を継げない民族は滅びる」と言う。恵まれた当館のスタッフや施設の活用を図り、次代への継承の使命を感じます。皆様方のご意見・ご要望をお寄せ下さい。



前高森町資料館長 手塚勝昭

平成23年3月31日付をもちまして、資料館長の職を退任いたしました。平成15年度以来3年間は主事、そのあと5年間は館長として、町当局をはじめ、町の皆さんに、公私にわたって、ご指導ご交誼を頂きました。ここに、厚く感謝しお礼を申し上げます。

在職中、町の歴史や文化について改めて学ぶ機会を与えて頂き、この伊那谷が大和政権の都への馬供給基地であり、東国支配の兵站地であったことの証である富本銭、幕末維新期にこの伊那谷が尊王攘夷運動の理論的な根拠となった平田派国学を学ぶ没後門人を全国でも最も多く輩出した証である本学神社、平安時代末から江戸時代直前迄の500年もの長きにわたり高森の地を支配した松岡氏の段丘上の典型的な山城の姿を今なお残している松岡城、そして、地域名と商品名を組み合わせた地域ブランドの商品として長野県で最も早く認められ、全国にその名が知られるようになった市田柿等、高森町には先人たちが現在の高森町民に全国に誇れる貴重な文化遺産を残してくれたことを学ぶことができました。歴史や文化が一層大事に見直されている中、これからも資料館が益々多くの人に親しまれて、発展していきますよう祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。

平成 23 年度 事業報告

館長 近藤 昭 弘

昭和 54(1979) 年 11 月に、旧役場庁舎を利用して高森町歴史民俗資料館が設立されてから今年で 32 年が過ぎました。昨年の 4 月より手塚前館長の後を受けてその任に当たって参りましたが、御蔭様で町内外の多くの方々にご利用いただくことができました。町民の皆様の温かいご支援、ご指導の賜物と心から感謝申し上げ、平成 23 年度の事業報告をさせていただきます。



[1] 企画・特別展

- ①企画展「五月人形と武器展・東京木目込み人形展」(千鶴萌会) (5月) (536名)
- ②特別展「平和展」(7月) (919名)
- ③特別展「白河藩と南山一揆」(11月) (793名)
- ④企画展「雛人形と美人画展」(3月) (772名)
- 三校児童・生徒作品展 ○小正月飾り作り体験教室 (1月) (31名)

[2] 「時の駅」講座 (12 年次)

- ①第 1 講座 7 月 2 日(土)「信濃乃宮 宗良親王とその周辺」 吉川博人氏 47 名
- ②第 2 講座 9 月 3 日(土)「国学四大人を祀る本学神社と女性勤王家松尾多勢子」 手塚勝昭氏 51 名
- ③第 3 講座 10 月 22 日(土)「松岡城址にあるお寺—雲龍山松源寺」 市瀬一至氏 44 名

[3] 古文書研究会

- ・竹内先生を講師に毎月第 2 木曜日に実施 (うち 1 回は館外研修)
- ・2 月は、山内尚巳先生に講師を依頼して特別古文書研究会を実施し、町内外から 31 名が参加。

[4] 委員会の活動

- ① 運営委員会 資料館の運営について協議。3 回開催 (その外に小正月飾り作り体験教室で臨時に 2 回開催)
- ② 調査委員会 高森町の「家並み・屋号」調査 5 回開催

[5] 委員・職員研修視察

- ・本年度から 2 年に 1 回の研修視察 (一泊) となったため、本年度は実施せず。

[6] 学社連携事業

- ① 資料館と学校が連携して授業を実施
高森南小 3～6 年 (21 学級)、高森北小 3～6 年 (3 学級)
松川中央小 3 年 (3 学級)、座光寺小 3 年 (2 学級)
- ② 農業体験ホームステイで来町した県外の中学生が見学のため来館 (11 グループ)
- ③ 資料館の施設を使っの高森南小歴史 (時の駅) クラブの活動

[7] 入館者数

平成 23 年度の入館者数は 7,440 名 (昭和 54 年の開館からは 185,028 名)

[8] その他

- ・町内外の小学校の子どもたちが、展示物を見学したり、実物に触れての学習のために資料館を積極的に活用してくれた。また、松岡城址、秋葉塔の塚、惣兵衛堤防等の史跡での現地学習の支援も実施した。
- ・高森町史学会、下市田三区間ヶ沢常会、下市田一区自治会、飯伊厚生事務研究会、飯伊教育長部会、下市田史談会、牛牧老人クラブ、南信仏画研究会等、町内外の多くの団体の方が来館し、展示の見学や施設をご利用いただいた。
- ・天理教高森支部の皆さんが、奉仕作業を継続して実施 (毎年 4 月の昭和の日) してくださっている。また、高森南小学校のボランティア委員会の皆さんが年に 2 回、落葉掃きやガラス拭きをやってくれ、環境整備の面で大変助かっている。

※平成 23 年度の記録

4. 1 新年度発足(館長、主事、臨時 各 1 名)
- 2 昭和 43 年度高森中学校卒業生の皆さん(13 名)
- 5 高森南小学校入学式 館長出席
- 7 第 1 回古文書研究会 (20 名)
- 10 下市田三区 間ヶ沢常会 (24 名)
- 10 柿の里 S C 主催のお花見ウォーク (26 名)
- 13 第 1 回資料館運営委員会 (6 名)
- 14 NHK 文化センター豊橋教室 (27 名)
- 19 「三六災害 50 年」リレー式パネル展
4 月 27 日まで
- 29 第 1 回資料館調査委員会 (11 名)
- 21 シニア大学 31 会 史跡めぐり (33 名)
- 23 飯田ふるさと講談「今村清之助」の台本作りの取材に牧内雪彦氏来館
- 24 三六災害パネル展の取材に飯田美博の桜井弘人氏来館
- 26 千鶴萌会高森支部の皆さんによる東京木目込人形の飾り付け (11 名)
- 26 高森町史学会役員会 (4 名)
- 27 「芝生維持管理」「庭木剪定」等の入札説明会
- 28 鯉のぼり飾り付け (4 名)
- 29 天理教の皆さんによる奉仕作業 (27 名)
5. 1 企画展「五月人形と武具展、東京木目込人形展」5 月 31 日まで
- 11 高森町史学会正副会長会 (8 名)
- 12 第 2 回古文書研究会 (22 名)
- 13 第 1 回資料館活用委員会 (7 名)
- 15 西宮市立瓦木中学校ホームステイ (8 名)
- 19 市田柿由来研究委員会幹事会 (6 名)
- 22 千葉県鎌ヶ谷市立第二中学校ホームステイ (4 名)



天理教の皆さんによる草取り作業(4月)

- 23 飯伊厚生事務研究会 (31 名)
- 26 高森町史学会幹事会 (12 名)
- 28 下市田一区自治会の「親子おもしろ科学教室」(76 名)
- 28 藤沢市立第一中学校ホームステイ (4 名)
- 29 藤沢市立第一中学校ホームステイ (14 名)
6. 2 刀の手入れ 中塚美弘氏
- 2 大阪府枚方中学校ホームステイ (3 名)
- 4 飯田ふるさと講談の牧内雪彦氏・神田紅氏一行来館 (4 名)



南小 6 年生、大昔の暮らしについての学習(6月)

- 4 南信仏画研究会 (10 名)
- 8 第 2 回資料館調査委員会 (11 名)
- 9 第 3 回古文書研究会 (20 名)
- 10 高森北小学校 6 年生 社会科学習 (22 名)
- 11 町内転入者の町内めぐり (9 名)
- 13 高森南小学校 6 年 3 組 社会科学習 (31 名)
- 15 第 1 展示室、第 3 収蔵庫の燻蒸作業のため 3 日間休館
- 21 高森南小学校歴史クラブ (10 名)
- 25 南信仏画研究会 (4 名)
- 26 高森町史学会総会 (28 名)
- 30 富本銭他 4 点を三遠南信交流展「黄金の世紀」出品のため貸出し
- 30 満蒙開拓平和記念館事業準備会の皆さんによる満蒙開拓関連のパネル展示 (6 名)
7. 1 特別展「平和展」7 月 31 日まで
- 2 第 1 回時の駅講座 吉川博人氏「信濃乃宮宗良親王とその周辺」(47 名)
- 3 高森町短歌同好会主催の柿の里短歌フォーラム (72 名)
- 5 高森南小学校歴史クラブ (10 名)
- 7 古文書研究会館外研修: 新居関跡・二川宿本陣資料館 (13 名)
- 12 高森南小 3 年 1・2 組 社会科学習 (56 名)
- 13 高森南小学校 6 年生から花壇の花苗を頂く (56 名)

- 14 高森南小学校3年3・4組 社会科学習 (57名)
- 15 「赤嶺会」昭和25年市田中学校卒業A組の皆さん (11名)



- 19 高森南小学校歴史クラブ (10名)
- 21 飯伊社会教育指導員研修会 (7名)
- 22 高森町史学会役員会 (4名)
- 24 高森町史学会町内史跡巡り (24名)
- 27 江戸川区立二之江中学校ホームステイ (8名)
- 27 高森町議会総務民生委員 (10名)
- 29 松尾多勢子顕彰碑設立準備委員会山本地区 (11名)
- 30 南信仏画研究会 (7名)
- 8. 1 第2回資料館活用委員会 (6名)
- 3 第3回資料館調査委員会 (13名)
- 9 市田柿由来研究委員会幹事会 (6名)
- 9 高森町史学会幹事会 (14名)
- 11 第5回古文書研究会 (19名)
- 26 「ふるさと今昔物語」編集検討委員会 (10名)
- 27 帝京大学横山ゼミ (16名)
- 30 高森南小歴史クラブ (10名)
- 9. 3 第2回時の駅講座 手塚勝昭氏「国学四大人を祀る本学神社と女性勤王家松尾多勢子」 (51名)
- 6 国学院大学考古学研究室 (5名)
- 8 第6回古文書研究会 (19名)
- 10 飯田建築板金工業会の皆さんによる雨桶の営繕活動 (4名)
- 21 第2回資料館運営委員会 (6名)
- 24 南信仏画研究会 (3名)
- 10. 6 飯伊教育長部会 (18名)
- 8 駒澤大学大学院岡村龍男氏、片桐家文書撮影に来館 (2日間)
- 9 町民運動会の実行委員の皆さん (66名)
- 10 駒澤大学博物館講座 (5名)
- 11 飯伊婦人文庫 (20名)

- 11 高森南小歴史クラブ (11名)
- 12 高退協下伊那支部 (20名)
- 12 高森町史学会役員会 (4名)
- 13 第7回古文書研究会 (20名)
- 13 山吹中昭和25年卒業生文集作り (4名)
- 14 山吹中昭和25年卒業生文集作り (5名)
- 20 館長出張授業 高森南小学校6年生の秋の遠足で「松岡城址～武陵地1号古墳」 (131名)
- 21 第4回資料館調査委員会 (13名)
- 22 第3回 時の駅講座 市瀬一至「松岡城址にあるお寺—雲龍山松源寺」 (44名)
- 27 高森南小学校歴史クラブ (10名)
- 29 南信仏画研究会 (3名)



- 飯伊教育長部会で挨拶する町長 (10月)
- 11. 1 特別展「白河藩と南山一揆」12月1日まで
- 3 飯田市山本の「松尾多勢子生誕二百年記念顕彰事業・歌碑除幕式」に館長参加
- 6 富岡製糸場世界遺産伝道師協会の石川康氏が蚕玉様の調査で来館
- 8 市田柿由来委員会 (7名)
- 8 高森南小学校歴史クラブ (9名)
- 9 豊丘村の「松尾多勢子記念式典」に館長参加
- 9 中津川中山道歴史資料館 (18名)
- 10 第8回古文書研究会 (17名)
- 12 町内巡り市田柿コース (15名)
- 13 駒澤大学大学院岡村龍男氏、片桐家文書撮影に来館 (2日間)
- 13 松岡城址の秋を観る会に館長参加
- 16 下市田史談会 (20名)
- 19 三遠南信文化研究同好会 (20名)
- 24 浜松市井の国会の皆さん (27名)
- 25 松川中央小学校3年2学級 (63名)
- 26 南信仏画研究会 (6名)
- 27 岡田玲子さんの「クリスマス作品」をギャラリーに展示
- 29 福島県伊達市の市田柿を学ぶ皆さん (11名)

29 松川中央小学校 3 年 1 学級 (31 名)

30 高森北小学校 4 年生 (24 名)



福島県伊達市の市田柿を学ぶ会の皆さん(11月)

12. 1 牛牧老人クラブ町内巡り (39 名)
- 1 信州大学農学部伴野ゼミ市田柿調査で来館 (4 名)
- 6 高森南小学校 3 年 1・2 組 社会科学習 (55 名)
- 7 刀の手入れ 中塚美弘氏
- 8 高森南小学校 3 年 3・4 組 社会科学習 (57 名)
- 8 第 9 回古文書研究会 (18 名)
- 10 高森町史学会幹事会 (11 名)
- 13 高森南小学校ボランティア委員会の窓拭き・落葉掃き奉仕作業 (16 名)
- 28 大正月の飾付け
1. 11 臨時資料館運営委員会 (7 名)
- 12 第 10 回古文書研究会 (16 名)
- 14 小正月飾り教室 (31 名)
- 14 飯田柳田国男研究会 (12 名)
- 17 高森南小学校 4 年 2 組 社会科学習 (29 名)
- 17 高森南小学校ボランティア委員会の窓拭き・落葉掃き奉仕作業 (32 名)
- 18 高森北小学校 3 年生 社会科学習 (34 名)
- 25 座光寺小学校 3 年 1 組 社会科学習 (23 名)
- 26 高森南小学校 4 年 3 組 社会科学習 (30 名)
- 26 座光寺小学校 3 年 2 組 社会科学習 (23 名)
- 31 高森南小学校 4 年 4 組 社会科学習 (27 名)
2. 1 高森南小学校 4 年 1 組 社会科学習 (27 名)
- 4 高森町史学会幹事会 (11 名)
- 4 市田柿由来委員会 (6 名)
- 9 古文書特別研究会 講師：山内尚巳先生「江戸時代の上市田宿について」(40 名)
- 10 第 3 回資料館活用委員会 (8 名)
- 12 淡交会長野県支部南信青年部 (13 名)
- 12 本学神社総代会 (5 名)

15 高森南小学校 4 年 1・4 組 社会科学習 (59 名)

16 高森南小学校 4 年 2 組 社会科学習 (29 名)

18 伊那近代思想史研究会 (9 名)

19 スポーツ少年団南野球部保護者会 (17 名)

23 飯田歴史研究所の研究会 (4 名)

24 市田柿由来委員会 (7 名)

27 美人画教室の皆さんによる美人画飾り付 (10 名)

28 高森南小学校 4 年 3 組 社会科学習 (28 名)

3. 1 企画展「雛人形と美人画展」3 月 31 日まで

6 吉田保育園 雛人形見学 (53 名)

7 第 3 回資料館運営委員会 (6 名)

7 みつば保育園 雛人形見学 (88 名)

8 古文書研究会総会及び第 12 回研究会 (19 名)

9 第 5 回資料館調査委員会 (13 名)

11 スポーツ少年団南野球部 (50 名)

13 高森町史学会役員会 (6 名)

14 山吹会の皆さん (33 名)



町内めぐりをされる牛牧老人クラブの皆さん(12月)

14 下市田保育園 雛人形見学 (32 名)

14 高森町史学会研修旅行(1泊)「美濃地方の史跡と長良川温泉、中山道を巡る旅」(20 名)

15 みつば保育園 雛人形見学 (21 名)

15 下市田保育園 雛人形見学 (42 名)

16 下市田保育園 雛人形見学 (12 名)

17 堀越史学会 (6 名)

21 高森南小卒業式 館長出席

23 市田柿由来研究委員会 (8 名)

23 高森町役場新入職員研修 (6 名)

24 食生活改善推進協議会 (18 名)

25 本学神社祭典 館長参列

28 松岡城址愛護会総会 館長出席

29 南信仏画研究会 (6 名)

資料館

委員会等の記録

1. 運営委員会

〈 委 員 〉

松島 悦男	小林 誠二
鈴木 大和	林 マリ子
本島 恭則	

〔委員会の主な活動〕

○委員会 (年 3 回)

- 4 月 委嘱状交付、正副委員長選出
本年度の運営についての協議
 - ・企画・特別展について
 - ・「時の駅」講座の確認
 - ・学社連携事業の促進
- 9 月 本年度の事業の見返しと来年度の運営について
 - ・特別展
 - ・「時の駅」講座
- 3 月 本年度の事業報告と来年度の方向
(小正月飾り作り体験教室で臨時に 2 回開催)

2. 調査委員会

〈 委 員 〉

(山 吹)	齋藤 榮成、塩澤 孝
(吉 田)	塚平 増男、中塚 悟
(下市田)	片桐 猛、唐木 孝治
	中村 忠敬
(上市田)	下平 清志
(牛 牧)	小林 正人
(大島山)	本島 義文
(出 原)	岩田 邦人

〔委員会の主な活動〕

○委員会 (年 5 回)

- ・「家並み、屋号」調査を地区ごとに進めた。
市田地区は昭和 9 年作成の地図、
山吹地区は昭和 31 年作成の地図を基
にして聞き取り調査などを行った。



運営委員会

運営委員会で委嘱状を交付する光沢教育長

3. 古文書研究会

〈 組 織 〉

- ・会 長 小林 正人 (牛 牧)
- ・副会長 寺沢 ゆき (山 吹)
- ・会 計 手塚 勝昭 (吉 田)
- ・監 事 北澤善二郎 (下市田)
- ・講 師 竹内 昭一 (下市田)
- ・顧 問 林 藤人 (牛 牧)
- 福島 壽子 (下市田)
- 原 次郎 (下市田)
- ・幹 事 近藤 昭弘、岡田 茂信
- ・会 員 26 名 (うち 8 名は町外の会員)

〔活 動〕

○定例会 (毎月第 2 木曜日)

郷土に関する古文書の読解を通しての研鑽の他に、館外研修 (7 月に新居町、豊橋市方面) を実施し、会員相互の親睦を図っている。

○特別研究会

山内尚巳先生を特別講師としてお招きしての古文書学習会。(町内外の一般の方も参加)



古文書研究会

古文書研究会の様子

「時の駅」講座のようす

本年度で 12 回目を迎えた「時の駅」講座の第 1 講座は、宗良親王や香坂高宗の足跡を訪ねて、今に残る遺跡や遺物を調べ、そこで育まれた日本的な、伊那谷の心を大切にしていきたい、というお話がありました。第 2 講座では、国学四大人を祀った本学神社と幕末の京都で活躍した女性勤王家松尾多勢子は、伊那谷が全国に誇れる宝であるというお話でした。そして第 3 講座は、松源寺を訪ね、その開祖文叔禅師の徳の高さによって現在でも静岡県井伊氏の里との交流が続いているというお話をいただきました。3つの講座ともに講師の方の思いが伝わり、受講者の皆さんは熱心に聴き入っておられました。

第 1 講座 「信濃乃宮 宗良親王とその周辺」

7月2日(土) 47名受講
講師 元高森町町会議員
吉川 博人 氏

開講式で挨拶される
松島運営委員長



宗良親王について
話をされる吉川氏

第 2 講座 「国学四大人を祀る本学神社と女性勤王家松尾多勢子」

9月3日(土) 51名受講
講師 前高森町資料館館長
手塚 勝昭 氏

講座で紹介される
手塚氏



大勢の方が聴講
された第二講座

第 3 講座 「松岡城址にあるお寺—雲龍山松源寺」

10月22日(土) 44名受講
講師 松源寺住職
市瀬 一至 氏

本堂で話をされる
市瀬住職



第三講座で挨拶される
小林運営副委員長

平成 23 年度 企画・特別展

企画展 五月人形と武具展・東京木目込み人形展 5月1日～5月31日 入館者 536 名

本年度も端午の節句に合わせて各種の五月人形や甲冑・刀剣等の他に、師範会千鶴蒔会高森グループの皆さんが丹精込めて作られた東京木目込み人形を展示してくださり、参観に来られた皆さんに好評でした。



各種の五月人形



刀剣を展示した武具展



獅子舞の人形たち

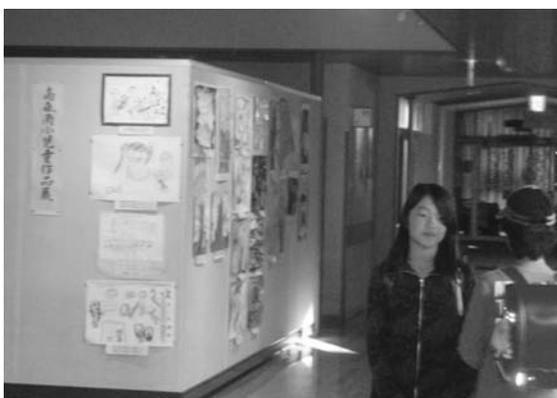


表情豊かな東京木目込み人形

町民ギャラリーに展示された作品

今年は町内小学校の児童の皆さんの絵や習字、クラブ作品だけでなく、大島山の岡田玲子さんのクリスマス作品も展示させていただき、資料館を訪れた皆さんが足を止めて見てくれました。

来館者の方々に好評な
児童の皆さんの作品



岡田さんの
クリスマス作品



特別展 「平和展」

7月1日～7月31日
入館者 919 名

相変わらず紛争が絶えない世界のようにすから、平和の尊さについて考えてもらうために、今までの戦争の歴史を年表やパネルで振り返るとともに、以前に町内外から寄贈された戦争遺品などを展示しました。また、満蒙開拓平和記念館事業準備会が作成した満蒙開拓歴史パネルも展示していただき、町内外の多くの皆さんが興味深く見入っていました。



戦争の歴史を綴ったパネル



満州から送られてきた手紙



「いちだの宮」に関連した遺品



被爆瓦の展示



満蒙開拓団に参加された方の遺品

平成 23 年度 特別展「平和展」展示資料目録

(敬称略)

	資料名	点数	所蔵等
1	年表 (近代日本の歩み)	1	高森町歴史民俗資料館 (作成)
2	満州青年義勇隊からの手紙	2	高森町歴史民俗資料館 (寄贈品)
3	空襲に備えて墨が塗られた土蔵の壁	1	飯田市 久保田清隆氏 (写真)
4	代用の取ってが取り付けられた筆筒	2	近藤貴久美氏 (写真)
5	新たに鑄造された領法寺の梵鐘	4	領法寺 (写真)
6	5ヶ年用 農蠶家累年日記	2	北沢富夫氏
7	原爆ドーム絵	1	高森町歴史民俗資料館 (寄贈品)
8	「青い目の人形」のカレンダー	1	
9	青い目の人形 (写真)	2	大鹿小学校
10	被爆瓦	1	高森町 (今村眞直氏寄贈)
11	土門 拳の写真集	1	高森町 (今村眞直氏寄贈)

	資料名	点数	所蔵等
12	大日本婦人会旗	1	高森町歴史民俗資料館(寄贈品)
13	いちだの宮 御霊代	3	〃
14	青亀刀、サーベル	各1	〃
15	マッカーサー元帥の投降文	1	〃
16	リュックサック	2	〃
17	雑嚢袋	2	〃
18	寄せ書き入りの日の丸	2	〃
19	武運長久の日の丸	1	〃
20	入営旗	2	〃
21	軍人の雨合羽	1	〃
22	陸軍の軍服	1	〃
23	海軍の船長服	1	〃
24	海軍の軍服	1	〃
25	戦時中の衣料切符	4	〃
26	手製の水筒	2	〃
27	奉公袋	1	〃
28	千人針	3	〃
29	飯盒	2	〃
30	軍隊用水筒	3	〃
31	コップ、箸、さじ	各1	〃
32	ゲートル	3	〃
33	鉄かぶと	1	〃
34	軍靴	1	〃
35	指揮刀	1	〃
36	回想記(戦争体験談)	2	〃
37	軍隊手帳	1	〃
38	お守り袋	3	〃
39	靖国神社合祀記念品の案(机)	1	〃
40	食罐、薬罐(海軍用)	各1	〃



陸海軍の軍服



満蒙開拓歴史パネル

特別展「白河藩と南山一揆」 11月1日～12月1日 入館者 793名

江戸時代の終わり頃、飯田下伊那地方に起こった「南山一揆」のようすを示す資料や白河藩の陣屋があった町内に残る古文書や史跡の写真を展示するとともに、先人の業績を語り継ぐ取り組みを紹介しました。また、飯田市龍江にある大願寺さまのご厚意により絵本『あっぱれ伴助』の原画も展示できました。



上市田に残る市田陣屋の史跡を写真で紹介



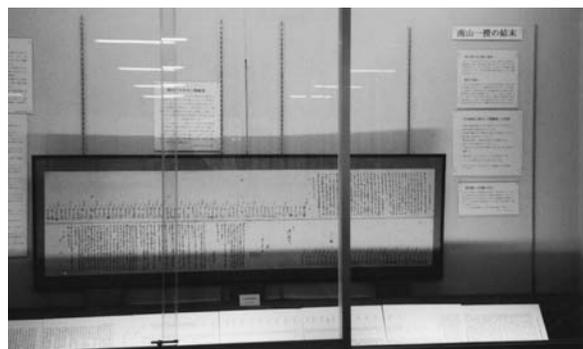
展示に見入っている来館者



南山 36 カ村の様子



南山一揆を語る遺品



泰阜村に残る市田陣屋宛の歎願書



一揆を伝える取り組みの紹介

平成 23 年度 特別展「白河藩と南山一揆」展示資料目録

(敬称略)

	資料名	点数	所蔵等
1	南山一揆の年表	1	高森町歴史民俗資料館(作成)
2	江戸時代に起きた主な一揆	1	〃
3	一揆の発生件数	1	〃
4	所領分布図(享保15年、慶応4年)	2	〃
5	南山三十六カ村の村高・年貢・戸数人口(安政7年)	1	〃
6	御年貢皆斎目録	1	関川家蔵
7	金納年貢等米納改方向	1	大島 徹氏蔵
8	南山三十六カ村の上納貢租の損害額	1	高森町歴史民俗資料館(作成)
9	出訴御咎宥免願	1	塩沢賢一氏蔵
10	請書	1	関川家蔵
11	殿様御頼母子講割合帳	1	関川家蔵
12	南山一揆に向けての組織図	1	林 嘉弘氏作成
13	龍江村中垣外	1	林 嘉弘氏作成
14	小木曾元亀(猪兵衛)の肖像画	1	小木曾元子氏蔵
15	出訴の際の議定書	1	松尾力三氏蔵
16	強訴に向けての組合規定書	1	篠田昭二氏蔵
17	南山一揆勢の進路	1	高森町歴史民俗資料館(作成)
18	江戸表歎願運動に要した費用	1	〃
19	飯田藩宛の南山三十五カ村歎願書	1	橋都 正氏蔵
20	市田陣屋宛の歎願書	1	泰阜村稲伏戸区所蔵
21	紙問屋騒動の犠牲者の碑	2	東照寺(飯田市龍江)
22	南山の碑	1	大願寺(飯田市龍江)
23	南山三十六カ村百姓一揆を語る会関係	2	林 嘉弘氏所蔵
24	絵本「あっぱれ伴助」	1	高森町歴史民俗資料館
25	絵本「あっぱれ伴助」の挿絵の原画	34	大願寺(飯田市龍江)



絵本「あっぱれ伴助」の原画

企画展「雛人形と美人画展」 3月1日～3月31日 入館者 772 名

今年も町内外の皆様から寄贈された御内裏様や各種の雛人形を展示して雛人形の移り変わりがわかるようにするとともに、町の公民館の美人画教室の皆さんの作品を展示させていただき、華やかなものとなりました。



華やかな展示会場



江戸時代の内裏ひな



展示された土雛、押絵雛、豆雛



7段飾りの雛人形に見入る保育園児



美人画教室の皆さんによる力作



艶やかな美人画

大正月飾り



玄関前に飾られた門松

今年も下市田の唐沢哲男さんと上沼啓孝さん
のご好意で、資料館の玄関前に伝統的で立派な
門松を飾ることができました。



「小正月飾り作り教室」



昨年に続いて、運営委員の皆さんが準備してくださった小正月飾り（繭玉と餅花）を、町内の小学生の皆さんや保護者の方にも参加してもらい、賑やかに飾ることができました。

小正月飾りを懐かしく眺める人や資料館で飾り終えた餅花と繭玉を喜んで帰った小学生などにも豊作を願った先人の思いが伝わったのではないのでしょうか。



準備してくださった運営委員の皆さん



小正月飾りの由来について話をする吉森宏人さん



真剣な表情で餅花をつける小学生



手伝ってくれた柳田國男研究会の皆さん



出来上がった小正月飾りを背に記念写真



見事な出来栄の小正月飾り
（繭玉と餅花）

学校教育との連携

子どもたちが郷土の歴史や文化について学び、生まれ育った土地に誇りと愛着を持ってほしいと願っています。そのために、資料館活用委員会において小中学校の先生方に資料館の積極的な活用をお願いしてきました。本年度は、昔の暮らしを学ぶために古い道具を見るだけでなく、道具に触れて体験することも行いました。また、町外の小学生も学習のために来館してくれたり、松岡城址、武陵地古墳などへ出向いての授業も行ったりしました。さらに、南小の歴史クラブが資料館で活動するなど先生方も前向きに取り組んでくれました。



土器、石器に触れてみる
北小6年生



ミシンなどを動かして体験
学習する松川中央小3年生



惣兵衛堤防の説明を聞く
北小4年生



昔の暮らしについて学習する
南小3年生



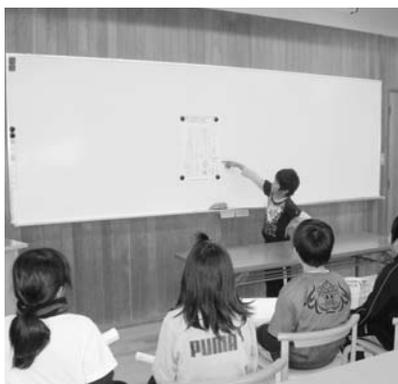
いろいろのある居間にすわって
説明を聞く北小3年生



歩いてきて学習する
座光寺小3年生



惣兵衛堤防の学習をする
南小4年生



歴史クラブで調べたことを
発表し合う南小児童



南小ボランティア委員会の
皆さんによる落ち葉はき

平成 23 年度 資料寄贈者御芳名

◆民俗資料・その他

(敬称略)

品名	数量	氏名	住所
鯉のぼり 一式	1	北條 重男	下市田
逆さランプ	1	木村 澄雄	牛牧出身
今牧式改良上簇器特許證(コピー)	1	広瀬 優	山吹
鯉のぼり	5	織田大原みち代	吉田
蠅取り器(ガラス製)	1	山岸 宗利	吉田
書籍 郷土誌「伊那」1973/7~1997	1	塚平 耕一郎	吉田
書籍「伊那の山河」原田島村著	1	塚平 耕一郎	吉田
樹木 梅檀(せんだん)	2	本島 勝司	大島山
書籍 井伊真澄(玄瑞)関係書簡集	3	飯島 紘	飯島町
古絵図 6点	6	伊藤 哲哉	飯田市
焼酎蒸留器	1	串原 寛	下市田
石器 2点	2	山田 三郎	飯田市
結納品セット	一式	北條 重男	下市田
書籍「知ろう、牛牧のむかしと今」	3	牛牧区	牛牧
書籍「大嶋山 瑠璃寺」開基九百年記念誌	2	瀧本 慈宗	瑠璃寺
書籍「下伊那史」第1巻	1	松上 清志	下市田
書籍「写真で綴る 上市田」	3	上市田区	上市田
書籍「長野縣町村繪地圖大鑑」等	149	高森南小学校	下市田



樹木
梅檀(せんだん)

◆書籍・刊行物(主な物)

(敬称略)

品名	数量	氏名	住所
「本棟造と養蚕建築」	1	飯田市歴史研究所	飯田市
「想いおこす 三六災害」	1	社団法人 中部建設協会	名古屋市
「清内路 歴史と文化2」	1	東京大学大学院人文社会科	東京都
「黄金の世紀」	1	飯田市美術博物館	飯田市
「野口在色」~郷土の文化を拓いた俳人~	1	上伊那教育会	伊那市
「武田氏と伊那大島城」	1	松川町資料館	松川町
「弾誓、但唱、閑唱たち」	1	松川町資料館	松川町
「菱田春草 鑑賞ガイド」	1	飯田市美術博物館	飯田市
「南信」新聞美術記事年表(明治・大正編)	1	飯田市美術博物館	飯田市
松川町生田部奈 部奈一朗氏所蔵文書	1	飯田市歴史研究所	飯田市
「遠山霜月祭」(南信濃◎ 木沢地区編)	1	飯田市美術博物館	飯田市
「南信州の寺院」	1	飯伊仏教会	飯田市



逆さランプ



牛牧区と上市田区から寄贈された本

ご案内と募集

ご案内

- ◆開館時間 午前9時~午後4時30分
- ◆休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始
- ◆学習室・研修室・町民ギャラリー

町民の皆さまに開放しております。

学習室・研修室は、諸会合・学習等に、町民ギャラリーは、作品等の展示にご利用ください。

募集

古文書研究会を毎月第2木曜日午後1時より学習室にて開いております。どうぞご参加ください。

研究調査報告

特別展「白河藩と南山一揆」

館長 近藤 昭弘

一 はじめに

江戸時代の市田郷は、飯田藩領であった。ところが、弘化3年(1846)に奥州白河藩の領地となり、市田陣屋を構え、慶応4年(1868)までの23年間にわたって市田村や南山36ヶ村等を支配した。

白河藩の支配下になった当初、年貢は従来の天領相場の金納であったが、嘉永2年(1849)奉行が務川忠兵衛になってからは原町相場の米納になった。南山郷の農民は年貢の軽減を願って歎願書を提出したが、務川は聞き届けようとしなかったばかりか、歎願書を提出した惣代を捕えて手鎖入牢を科した。



市田陣屋

そこで、願いを聞き届けてもらうには強訴しかないと考え、安政6年(1859)12月、南山郷から集結した農民1,600人余が一揆を起し、市田陣屋を目指した。

今回の特別展では、上市田にあった市田陣屋を舞台にした「南山一揆」に関する資・史料を展示し、一揆の起きた原因やその結果について考察することにした。

二 代表的な騒動

(1) 佐倉騒動

正保元年(1644)佐倉藩の領内は不作が続き、領民の生活は困窮していたが、国家老は様々な税を申付け過酷な取り立てを行った。そこで、割元名主であった惣五郎は、各村の名主と一緒に佐倉代官所に減税をお願いしたが取り上げられなかった。そこで、大挙して江戸に上り藩主堀田正信の上屋敷の門前でお願いしたが、役人に追い返されてしまった。

万策尽きた惣五郎は、最後の手段として4代将軍徳川家綱に直訴を決行した。幸いにも、後

見役保科正之によって願書を取り上げられた。しかし、佐倉藩に引き渡された惣五郎は、翌年の承応2年(1653)直訴の罪により公津ヶ原刑場で磔に、4人の子どもは打首の極刑に処せられた。

(2) 貞享騒動(加助騒動)

貞享3年(1686)の安曇平は不作であったが、松本藩は年貢1俵当たりの容量を3斗から3斗5升到引き上げることを決定した。周辺の藩の1.4倍という増税であった。中萱村の元庄屋、多田加助を中心とした同志11名は、密かに中萱の熊野神社の拝殿に集まり、百姓たちの窮状を救うための策を練った。計画を知った藩内の一万人余の百姓が、郡奉行に1俵当たり従前の2斗5升への減免を求める訴状を提出するために松本城周辺へ押し寄せた。藩主水野忠直は参勤交代のため不在であったので、城代家老は早々に騒動を收拾するべく、百姓側の要求をのむとして引き取らせた。そして翌日、年貢を減免するとの回答書を手渡した。

一方で、江戸表の藩主に早馬で注進し、藩主の裁可を得た上で年貢減免の約束を反故にし、翌月に関係者の捕縛に臨んだ。多田加助とその一族や同志ら28人は、藩の勢高刑場・出川刑場で磔・獄門などの極刑に処せられた。

(3) 紙問屋騒動

文化4年(1807)飯田藩御用達を務める毛賀村の林新作は、御用紙問屋を願い出て許可された。これにより、問屋改印のない紙は一切売買禁止となり、改印を受けるには紙値段1両につき口銭銀1匁6分を納入することになった。

これに対し飯田町の商人や紙漉き・元結業者は、新作に特権を独占されるとして強く反対し、問屋設置は撤回された。しかし、文化6年(1809)飯田町商人は、運上・口銭収入を期待していた飯田藩と結び、新作と同じ条



南山一揆の舞台となった大願寺



南山の碑

件で紙問屋営業が認められ、紙の生産から販売までを独占する体制が整えられた。これを知った幕府領の今田村の紙漉き業者を中心とする農民や、高須藩知久平村や飯田藩内の紙漉き業者なども駆けつけ、紙問屋発起人の林新作の家を打ち壊した。

この騒動に対し、飯田藩内で約 40 人が嫌疑をかけられ調べられた。その後、今田村の 9 人が江戸へ呼び出され、取り調べ中に 5 人が牢死した。

三 南山一揆

(1) 市田陣屋の苛政

白河藩は、領地 18,000 石余が上地となり、その替地として与えられた知行地が信濃・遠江・播磨の三国にわたり、伊那郡上市田村の他に遠江・播磨にも陣屋を設置しなければならず、藩財政は窮迫していた。

白河藩となった南山をはじめとする村々は、従前通りの天領並みの金納を市田陣屋に願い出たところ、弘化 3 年 (1846) より 7 年間 (嘉永 5 年まで) は石代金納が許可された。しかし、嘉永 5 年 (1852) に奉行が務川忠兵衛になってからは、

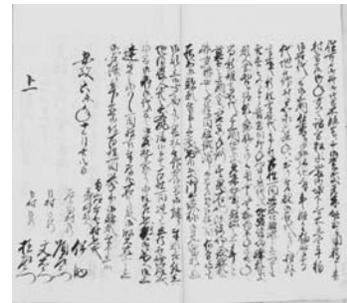
- ① 豪雨災害の普請に対する御下金の代わりに 7 年年貢を免除すると申し渡したのに、翌年になると年貢を申し渡した。
- ② 糸屋・水車や諸職に新しく運上を申し付けた。
- ③ 越前国の漆屋に漆運上を差し出させて、領内の漆木を買い占めさせた。
- ④ 異国船渡来のため防備の入用が多くかかることを理由に、これまでの金納を米納にする準備期間 (向こう 3 年間) だけは、市田陣屋御払米値段より 10 両につき 1 俵安の相場で石代金納すべきことを申し渡した。(実際には、近在の米商人と結託して米価を引き上げたので原町相場は高くなり、南山では毎年 500~600 両も多く上納しなければならなくなった。)
- ⑤ 安政 2 年 (1855) からは、従前の金納を改めて米納にすると申し渡した。等の苛政が続いた。



小木曾猪兵衛の肖像画 (小木曾元子氏所蔵)

(2) 江戸表での訴願

安政 2 年 (1855)、南山 36 ヶ村の代表者 4 名が市田陣屋に赴き、年貢の軽減の歎願をしたところ、2 名が入牢、2 名が手鎖という処罰を受け、今後は歎願をしないという請書までも取られて



市田陣屋宛歎願書 (橋都 正氏所蔵)

しまった。そこで小木曾猪兵衛らは、江戸表に訴願することを決した。公儀目明しの手を経て老中等の重

役に願意を通じてもらったり、門訴・張訴・箱訴などの方法で訴えるといった江戸表での内願運動は、猪兵衛ら南山郷の村役人によって計画的に繰り返し行われた。その結果、農民の窮状が白河藩の江戸屋敷は勿論、江戸幕府にも知るところとなった。



額装の歎願書 (泰阜村稲伏戸区所蔵)

庄屋を最後に務めた車屋が飯田市駄科に移住した際、当主が表装をして保管していた。平成 22 年に現当主の林克己氏が、「これは地域のものだから」と稲伏戸へ寄贈された。先人の苦労を今に伝える貴重な資料を地域の多くの住民に見てもらえるように稲伏戸公会堂に、掲示されている。

(3) 一揆の勃発

安政 6 年 (1859) 11 月に市田 6 ヶ村御蔵米の立冬入札が行われ、田村村の半右衛門が大変な高値で落札した。これに対し村役人たちは年貢の軽減と延納を訴えたが、12 月 20 日過ぎの訴願は御法度だから明春になってから願い出るようにと聞き入れられなかった。

そこで、最後の手段として強訴しかないとの結論に至り、小木曾猪兵衛が中心となって農民の拠り所として佐倉惣五郎の霊を祀る「佐倉神社」を大願寺境内に建立し、村々を回って団結の必要や強訴に対する心構えを説いた。強訴の計画を練るに当たって、文化 6

年 (1809) に起きた「紙問屋騒動」の時は今田村で 9 人の犠牲者が出たことから、犠牲者を出さないということを第一に考えた。強訴する時の惣代として 4 人 (順左衛門、文右衛門、権左衛門、伴助) と、30 人ずつの組分け



北沢伴助の墓

やその責任者等もあらかじめ決められた。いざ行動する時には、危険な物は一切持たない、一言たりとも雑言などを言わない、責任者の指示に従うなどの申し合わせもする等、万全の策を練った。

安政 6 年 (1859) 12 月 27 日、南山 36 ヶ村 (平野村だけは見廻役を務めていたので除外) 1,616 人の農民が今田の渡場に集結した。3 艘の舟が数十回往復し、翌日の未明までかかって全員が時又村に渡り終えた。そこで 30 人を 1 組として隊列を整えて、長野原・駄科・毛賀の各村を経て八幡まで進み、28 日の明け方になって八幡原に到着した。



一揆勢が奉行務川忠兵衛と対峙した八幡原

通報を受けた飯田藩は、禁止されている強訴の徒党を通したとあっては幕府から咎められるので、茶屋町を通って飯田城下へ入ろうとするのを差し止めた。半数の百姓は、永代橋を渡って別府・南条から進もうとしたがこれも差し止められ、八幡原まで引き返して対峙した。飯田藩の役人と一揆の惣代が応対したが、郡奉行の務川忠兵衛が出張ないことには収まらない状況になった。知らせを受けて現場に到着した郡奉行は、惣代の伴助、順左衛門、文右衛門を呼び出し強圧的態度で詰問に及んだ。それに対して伴助らは少しも屈せず、激しい応酬が続いた。成り行きを見ていた飯田藩の仲介もあって、郡奉行から年貢を天領並みにするという回答を得て決着をみた。要求が通ったので、一揆勢

は飯田藩の役人にお礼を申し上げて帰途についた。

(4) 一揆の結果

この騒動については、江戸表での歎願運動等ですでに幕府も情報を得ており、飯田藩も介入しているので、白河藩としては郡奉行に対する厳重な処断が必要であった。そこで、**郡奉行務川忠兵衛には免職を申し渡した**。事件の処理に当たった後任の郡奉行牧田平兵衛は、天下のご法度である徒党強訴の願意をそのまま聞き届けることは、公儀への聞こえもはばかられるので、願意は一応却下し、改めて歎願書を提出させた。(この歎願書の差出人は、南山 36 ヶ村惣代 9 人の連名になっており、騒動の時の伴助ら 4 人の惣代は入っていない。) そして、南山の各村々の村役人 94 名を呼び出し、全員から印を取った請書を提出させた上で、**農民の要求をほぼ全面的に認める回答がなされた**。その一方で、強訴の時の惣代 4 名 (伴助、順左衛門、文右衛門、権左衛門) を呼び出し、強訴の罪で一ヶ月の入牢を申し付けた。

四 ま と め

一人の犠牲者も出さないということの大前提に慎重に策を練り、命がけて奉行と渡り合い、天領相場の石代金納という要求を認めさせた南山一揆。これまでに発生した一揆は、中心となった者が磔・獄門といった極刑に処せられたが、南山一揆は一人の犠牲者も出さなかったという点で特筆すべきことである。

南山一揆が起きた安政 6 年 (1859) から 150 周年になるのを記念して、先人の偉業を語り継ごうと、大願寺の鷲山芳照住職や檀徒総代長の林嘉弘氏を中心となって「南山三十六ヵ村百姓一揆を語る会」を企画し、平成 22 年 (2010) 7 月に大願寺において行われた。

この日に合わせて、南山一揆を題材にした「あっぱれ伴助」(小林正子・作、北島新平・絵)も販売されたので、一読していただければと思います。



絵本「あっぱれ伴助」

所蔵・史資料



- 考古資料 多数（町内出土品・寄贈品等）
- 歴史資料 約 500 点
（座光寺家、片桐家、越田家他の武具・古文書、
水戸浪士通行時の資料、市田陣屋、市田宿、
山吹役場関係書類、市田柿関係等）

- 民俗資料 約 4,000 点
（農家の居間、農業、養蚕関係道具、民具、
雛人形、五月人形、貨幣、衣装類など）
- 美術工芸品 約 130 点（額類、書画、書軸）
- 図書類 約 2,500 点

入館者数と利用のようす

〈 入 館 者 数 〉（単年度及び開館以降の累計）

○平成 23 年度の単年度入館者数

7,440 名（町内 6,244 名 町外 1,196 名）

○昭和 54 年 11 月（開館）～平成 24 年 3 月 31 日までの累計

185,028 名（町内 144,610 名 町外 40,418 名）



親子おもしろ科学教室（5月）



柿の里短歌フォーラム（7月）



中津川市中山道歴史資料館の
皆さん（11月）

編集後記

本年度 4 月からこの資料館に勤めるようになった私は、実に多くの人達が資料館に関わってくれており、そのおかげで資料館の今日があるんだなあ、と感じた一年でした。そして、この資料館報をまとめてみるとその思いをいっそう強くしました。

寒かった今年の冬もようやく終わり、いよいよ春祭りのシーズンです。私が住む下市田でも萩山神社のお祭りがありました。その祭りに使う 3 段草鞋の講習会が 2 回ほどあり、参加してみました。草鞋を作るのは初めてのことで、縄をなうことからしてうまくできませんでした。その際大いに参考になったのは、3 段草鞋づくりのようすを細かなステップでデジカメに収め、印刷したテキストでした。このテキストは役場の職員にお願いして有料で印刷してもらった、とのこと。そんな伝統の技の継承に資料館としても手助けできることはないのかな、と思った次第です。

皆様に愛され、頼りにされる資料館をめざして努力したいと思っています。今後とも皆様方のいっそうの温かいご支援・ご指導のほどをお願い申し上げ、編集後記といたします。

（松上 記）